

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート (年度末)

学校名 (三重県立伊勢まなび高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が安心して楽しく学べる学校 ○生徒が学びたい内容を自分のペースに合わせて学べる学校 ○生徒が社会に出て自立できる力を身につけられる学校
(2) 育みたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○生き生きと楽しく学校生活を送ることができている生徒 ○自ら将来や進路を考え、社会に出て自立できる力や社会生活の基盤となる確かな学力を身につけている生徒
ありたい教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着のため、授業規律を大切にし、学習意欲を引き出す授業の工夫・改善に努めている教職員 ○通級による指導に必要な知識・スキルを身につけ、生徒一人ひとりの特性や実態に応じた適切な指導・支援を行うことができる教職員 ○キャリア教育の重要性を理解し、生徒が学ぶことと将来とのつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身につけることができるよう、適切な指導・支援を行うことができる教職員 ○信頼される学校・教職員であるため、教育に携わる者としての自覚と規範意識を持ち、生徒への深い愛情に基づく教育を実践するとともに、同僚と協働することができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉適切な友人関係の構築、自分の居場所の確保、わかりやすい授業、資格取得、卒業及び希望進路の実現</p> <p>〈保護者〉生活規律の確立、学校生活の充実、希望進路の実現、家庭との密接な連携</p> <p>〈中学校〉不登校等の多様な課題を持つ生徒の受け入れ</p> <p>〈地域〉生徒の規範意識の向上、生涯教育の場の提供</p> <p>〈就労・進学先〉挨拶等の社会性の育成、コミュニケーション能力の向上、基礎学力の定着、資格取得</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈保護者、中学校、地域、就労・進学先〉同上</p> <p>〈スクールカウンセラー・特別支援教育関係者・行政等生徒支援関係者〉生徒の居場所の確保、生徒一人ひとりの特質を踏まえた対応</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <p>〈保護者〉生活規律の確立、日常生活に関する情報提供</p> <p>〈中学校〉学校生活に関する情報提供、生徒に対する連携したかかわり</p> <p>〈スクールカウンセラー・特別支援教育関係者・行政等生徒支援関係者〉専門分野における生徒への直接的な、教職員への間接的な支援</p> <p>〈地域〉外部教育力としての専門的な知識・技能の提供、生徒の見守り</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ○「基礎基本を学べると思ったから」という志望動機（生徒の思い）を叶えるよう、基礎学力の定着に取り組んでもらいたい。また、学力の向上のため、課題の設定等により生徒の学習を促すとともに、家庭での声かけ等の保護者の協力が得られるよう尽力してもらいたい。 ○オンライン授業等のICTの活用について、先進的な取組等から学び、生徒が楽しんで学習できる環境を作ってもらいたい。また、PCやタブレット等を活用した授業を充実させることにより、生徒も教職員もICT活用能力を向上させてもらいたい。なお、来年度には、具体的な活動指標を設定してもらいたい。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ○「質問や意見を言いやすい」と感じている生徒の割合が下がっていることから、その改善に向け、コミュニケーション能力の向上も含め、尽力してもらいたい。また、「将来の進路が一番の悩み」という生徒の思いをふまえ、個人面談や情報提供等による一層の進路指導の充実をお願いしたい。さらには、教育相談や保健指導、図書館教育等の充実にも引き続き尽力してもらいたい。 ○授業規律について、社会で守らなければならないルールとしても、徹底・確保を引き続き図ってもらいたい。また、いじめの早期発見・早期対応のため、アンテナを引き続き高くし、「いじめゼロ」を目標に取り組を進めてもらいたい。 ○生徒が達成感を持ったり、自信や自己有用感を高めたりできるため、文化祭等の生徒会行事や「人権を考える集い」を引き続き実施してもらいたい。また、保護者の参観についての広報を行ってもらいたい。 ○教職員アンケートにある「仕事のやりがい」「上司との気軽な会話」のさらなる向上のため、校長による尽力をお願いしたい。また、特に時間外労働時間の縮減に注力してもらいたい。
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○各分掌の連携等により、怠学対策の成果は上がっている。今後も、授業規律の確保・徹底について全教職員で共通理解を図る必要がある。 ○アクティブ・ラーニング等の授業時間（90分）の有効な活用方法やICTの活用等について研究を進め、学習意欲を引き出す授業づくりを推進する必要がある。また、新学習指導要領に対応するため、「総合的な探究の時間」「学びの基礎診断」のあり方等についても研究を進め、新たな教育課程を構築する必要がある。 ○コミュニケーション能力や基本的な生活規律に課題があるなど、多様な生徒が多く入学し、個の課題をふまえた対応が不可欠である。特に通級による指導については、円滑な、生徒の課題改善に繋がる効果的な指導となるよう、校内体制の構築や環境整備、教職員のスキルアップ等を進める必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○信頼される学校・教職員であるため、教職員一人ひとりのコンプライアンス意識の醸成を図るとともに、風通しのよい活力ある組織づくりを推進する必要がある。 ○体罰の根絶及び未然防止のため、教職員一人ひとりが体罰によらない指導のあり方を考えるとともに、組織的な取組を構築する必要がある。 ○生徒数の減少に対応するため、ものづくり工学科の魅力化等の活力ある学校づくりを推進する必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出すため、「わかりやすい授業」の構築（授業改善）を推進する。特にICTの活用により、生徒が主体的に取り組める授業の構築を目指すとともに、基礎学力のさらなる定着を図る。 ○生徒の多様な実態をふまえた、特別支援教育やキャリア教育等の効果的な生徒支援を推進する。特に生徒に関する情報の共有化と分掌間の連携を密に行いながら、あらゆる機会をとらえ、社会的自立に必要なコミュニケーション能力や自己肯定感等の基盤となる素養の育成を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、また、特別支援教育のさらなる充実を図るため、授業改善やICTの活用、新学習指導要領への適切な対応、通級による指導のあり方の研究等により、教職員の資質向上を推進する。 ○会議時間の短縮や変形労働時間制の活用等により、総勤務時間を縮減し、働きやすい環境の整備を推進する。 ○信頼される学校・教職員であるため、教職員一人ひとりが生徒に対する深い愛情と教育に対する使命感・責任感を持ち、生徒と向き合いながら日々の教育活動を行うことができるよう、コンプライアンス意識を醸成するとともに、風通しの良い活力ある組織づくりを推進する。

4 本年度の行動計画と評価

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
----	---------	----	----

<p>基礎学力の定着（学習指導の充実）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律を徹底・確保を推進し、学習態度の形成を図る。 ○「わかりやすい」授業の構築（授業改善）、また、オンライン授業等のICTの活用を推進し、学習意欲の向上を図る。 【活動指標】 ○学校生活（授業評価）に関する生徒アンケートの実施が年1回以上 ○ICTを活用した授業の実践が教職員1人当たり年1回以上 【成果指標】 ○「授業に対する興味・関心」「内容理解」「満足度」の高い割合が85%以上 	<p>【成果指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業に関するアンケートでは、「興味・関心」が88.8%、「内容理解」が91.6%、「満足度」が90.7%であった。 【その他について】 ○授業中の生徒との対話やチーム・ティーチング（TT）による生徒支援、通級による指導における認知機能トレーニング等により、生徒の満足のいく活動や個別にきめ細かな対応ができた。 ○授業規律の徹底・確保について、怠け学はほぼ無いものの、遅刻はまだ多い。 ○コロナ禍での対応も含め、電子黒板やプロジェクター、Chromebook等、ICTを活用した授業にも、少なからず取り組んだ。 	<p>※ ◎</p>
<p>個に応じた生徒支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○通級による指導をはじめとする特別支援教育を推進し、コミュニケーション能力や社会的自立に必要な基本的スキルの向上を図る。 ○生徒指導、命を大切に教育やいじめを許さない教育、人権教育、生徒会行事等を推進し、生命尊重の精神や自己肯定感の育成、人間関係の構築（仲間づくり）を図る。 ○教育相談や保健指導、図書館教育等を推進し、心身の豊かな成長を図る。 【活動指標】 ○面談週間や声かけ週間等の生徒支援を重点的に行う機会の設定が年6回以上 【成果指標】 ○自ら挨拶できる生徒の割合が70%以上 ○各行事への参加率及び満足度が高い生徒の割合が90%以上 	<p>【成果指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○声かけ週間では、約70%の生徒が自ら挨拶できた。また、会釈のみであった生徒も、2学期になると声を出せるようになることもあった。 ○修学旅行が感染症拡大により延期、さらに中止となったものの、他の行事等に参加した生徒にとっては、絆を深める機会、活躍の場、自己肯定感を高める機会となった。なお、行事等への生徒の満足度等については、次のとおりである。 * 人権を考える集い、人と人とのきずなをつくる集い、人権LHRでは、「理解度」「満足度」とともに90%以上であった。 * 体育祭では、「参加率」が86%、「満足度」が95%、文化祭では、「参加率」が84%、「満足度」が96%であった。 * 読書週間に関するアンケート（6・10月）では、充足回答が84%と90%であった。 * 保健だよりに対しては、「読む・少し読む」が75.7%であった。 【その他について】 ○通級による指導では、特に、スクールカウンセラー（SC）や発達障がい支援員、外部専門機関等とも連携し、生徒の課題解決に取り組んだ。 	<p>◎ ※</p>

キャリア教育の充実	<p>○進路指導を中心とする教育活動全体によるキャリア教育を推進し、自らの進路や生き方を主体的に考える力の育成を図る。</p> <p>○早期からの就労・就職支援、また、ものづくり工学科の専門性を生かした職業教育を推進し、生徒一人ひとりの適性に応じた進路実現を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○進路だよりの発行及び進路講話の開催が年3回以上</p> <p>○アルバイトやインターンシップ等の就労経験の奨励・創出が随時</p> <p>【成果指標】</p> <p>○就労経験がある生徒の割合が前年度以上</p>	<p>【成果指標について】</p> <p>○アルバイト等の就労率は、34.1%と、コロナ禍の影響もあり、昨年度(36.4%)よりわずかに減少した。</p> <p>【その他について】</p> <p>○進路指導部を中心に、分掌・学年との密な連携体制のもと、さまざま取組を行った。特に、卒業予定生徒には、保護者とも連携しながら、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かな支援・指導ができた。ただし、就労支援対象生徒については、実習先の確保や就職の決定に困難さがあった。</p> <p>○ものづくり工学科では、実習を通じ、働く心構え、特に、片付けや掃除、挨拶の習慣化等を指導してきた。</p>	※
-----------	---	---	---

改善課題

- 来年度から学習（1人1台）端末（Chromebook）を用いた学習活動が進められることから、コロナ禍の対応も含め、基礎学力の充実として、あらゆる場面でのICTの活用が不可欠である。
- 各種教育、特に、通級による指導等の特別支援教育とキャリア教育については、今年度の成果をふまえたさらなる取組が必要である。また、その観点からも、基礎学力の充実及び個に応じた生徒支援として、授業のユニバーサルデザイン化への早急な対応が重要である。

（2）学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	<p>○授業改善（「わかりやすい」授業の構築）、また、オンライン授業等のICTの活用に係る自己研鑽に努め、基礎学力の定着を図る。</p> <p>○通級による指導をはじめとする特別支援教育、また、その他の教育等に係る自己研鑽に努め、個に応じた生徒支援を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○通級関係者会議や現職教育等の校内研修機会の設定が年10回以上、また、校内外の研修機会への参加が教職員1人当たり年1回以上</p> <p>○ICTを活用した授業の実践が教職員1人当たり年1回以上</p> <p>【成果指標】</p> <p>○授業改善や各種教育に係る資質が向上したと考える教職員の割合が前年度以上</p>	<p>【成果指標について】</p> <p>○9月の在宅学習期間には、実習系の教科科目を除く授業のほとんどで、オンライン授業を実施した。「ICT利用に関するアンケート」の結果でも、ICTを活用した授業を実施した教員が79%となった。</p> <p>○各種教育に係る資質の向上として、通級による指導の取組内容の共有、アサーショントレーニング、ICTの活用等の研修に取り組んだ。</p> <p>【その他について】</p> <p>○ICTの活用にかかわって、環境の整備にも取り組んだ。</p>	※◎ ※◎
信頼される学校・教職員であるための行動	<p>○教職員一人ひとりが不祥事を自分事としてとらえ、その根絶に率先して取り組み、公教育への信頼の回復・向上を図る。</p> <p>○教職員一人ひとりが生き生きと活躍できる（チームワークの向上と意欲の増進が可能な）職場環境を整備するとともに、保護者・地域住民・関係諸機関等と連携し、信頼される組織の構築（学校づくり）を図る。</p>	<p>【成果指標について】</p> <p>○ストレスチェック集団分析結果では、健康リスクが全組織平均に比べて良好（-8.1%）である一方で、上司及び同僚のサポートの尺度がそれぞれ全国平均値より若干（-0.2・-0.1%）下回っている。</p>	※◎

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校信頼向上委員会の開催が年3回以上、また、コンプライアンス意識の醸成を図る機会の設定が年6回（各学期2回）以上 ○教職員満足度アンケートの実施が年1回以上、また、管理職との対話が教職員1人当たり年3回以上 ○保護者や中学校等との情報共有が随時、また、特長ある取組についての中学校や報道機関等への情報提供が適時 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日々の仕事にやりがいを感じている」の「満足」の割合が30%以上、また、「校長や教頭はいろいろな意見を聴き取っている」の「満足」の割合が50%以上 	<p>【その他について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○服務規律の遵守や職場環境の改善等に向け、管理職と教職員との積極的な対話や情報共有等に努めた。 ○中学校等の関係諸機関と連携し、入学希望者の増加に向けた取組等、信頼される組織の構築を図った。 	
働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○業務の見直しや削減等の勤務管理を推進し、総勤務時間の縮減を図る。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○設定した日の定時に退校できた教職員の割合が90%以上 ○予定通り（週1回以上の）休養日を実施できた部活動の割合が100% ○放課後等に開催して60分以内に終了した会議の割合が90%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年360時間を超える時間外労働者数が0人 ○月45時間を超える時間外労働者の延べ人数が0人 ○1人当たりの月平均時間外労働が3.5時間以下 ○1人当たりの年間休暇取得日数が15日以上 	<p>【成果指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人当たりの月平均時間外労働が2.7時間と、昨年度より若干（-0.1時^分）改善した一方で、1人当たりの年間休暇取得日数が21.3日と、昨年度より若干（-0.8時^分）悪化した。 <p>【その他について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○勤務時間の適切な割振りや休暇の取得等を推進した。また、活動指標のうち、設定した日の定時に退校できた教職員の割合が97%、放課後等に開催して60分以内に終了した会議の割合が100%であったなど、活動指標のすべての目標値を達成した。 	※
改善課題			
<p>○来年度から学習（1人1台）端末（Chromebook）を用いた学習活動が進められることから、コロナ禍の対応も含め、資質向上の取組として、ICTの活用に係る自己研鑽にさらに努めることが不可欠である。また、特別支援教育の推進の観点からも、授業のユニバーサルデザイン化に係る自己研鑽が重要である。</p> <p>○信頼される学校・教職員であるための行動及び働きやすい職場環境づくりについては、現状に甘んじず、今年度の成果をふまえたさらなる取組が必要である。</p>			

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	<p>(1) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○TTについて、教員数に係る負担をやりくりし、生徒に寄り添った授業を展開してもらいたい。 ○ICTの活用について、特別な支援が必要な生徒への有効な支援の観点からも、オンライン授業や不登校生徒への配信授業の実践等により、積極的に推進してもらいたい。なお、各種たよりの電子配信に試験的に取り組んではどうか。 ○通級による指導、キャリア教育、教育相談等について、「将来の進路」に不安を持つ生徒の割合が低くないことから、生徒の社会的自立に向け、個々の課題の解決、基礎学力の向上やコミュニケーション能力の育成、生活習慣の定着等により、生徒を引き続き支援してもらいたい。 ○学校行事について、生徒会役員とも話し合い、参加率をさらに向上してもらいたい。また、成功体験ができる活動を多く取り入れ、生徒の自信や自己有用感を高めてもらいたい。
--------------------	--

	<p>(2) 学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業のユニバーサルデザイン化について、ICTの活用、教材の工夫や指導技術の向上、授業内容の公開等により、生徒の実態に配慮した、生徒が興味・関心や意欲を持ち、充実した学びを実感できる授業づくりに取り組んでもらいたい。 ○働きやすい職場環境づくりについて、職場の良好な人間関係の構築として、ハラスメントの防止にも注力してもらいたい。
--	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領とGIGAスクール構想の本格実施もふまえ、「わかりやすい」授業の構築（授業改善）として、特に、授業のユニバーサルデザイン化とICTの活用を推進する。 ○コロナ禍の対応も含め、個に応じた生徒支援の充実として、通級による指導等の特別支援教育とキャリア教育をさらに推進する。 ○成年年齢の引き下げ（「18歳成年」）もふまえ、主権者教育の充実として、学校行事と生徒会活動の活性化を図る。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動についての改善策もふまえ、資質向上の取組として、特別支援教育の推進やICTの活用等に係る研修の実施や自己研鑽に努める。 ○働きやすい職場環境づくりとして、総勤務時間のさらなる縮減とともに、ハラスメントの防止を図る。